



# ひなどい

## 【教育目標】

なかよく せいっぱい  
遊ぶ子ども

第8号

令和6年11月27日  
新潟市立新津第三幼稚園だより



## 遊ぶことは学ぶこと

園長 大矢 晃子

11月12日に、年中もも組で研究保育を行いました。学校教育や保育にかかわる小学校や保育園、大学、教育行政の先生方に来園していただき、子どもたちの「遊び」を話題として、よりよい保育の在り方を私たち教師が学ぶ場となりました。



幼児教育の基本は、子どもの興味関心から環境構成をし、主体的な遊びを通して幼児期にふさわしい生活が展開されることです。子どもがわくわく心を動かし、「やってみたい」という生活が園にあることが大切です。子どもは心が動くと、もっとやりたくなったり、もっと知りたくなったりします。それが幼児期に育みたい姿へつながっていくのです。

今回、もも組の保育室には、子どもたちが「やりたいこと」が、いくつかありました。①毎日メニューが増えるお寿司屋さん、私が保育室に行くといつもおすすめを教えてくださいます。②秋の自然物を使って作るテーブルでは、かわいいどんぐりが並んでいます。③いろいろなコースに挑戦するアドベンチャーでは、より難しいことを考え、繰り返しやってみようとしています。このような遊びの場で、担任は前日の子どもたちの「やりたい」を受け止め、今日の遊びを予想し、保育案を立てます。そして、それに基づいて保育を行います。研究保育では、このような保育が展開する中で、子どもの思いや経験していることを教師がどう捉えて、どう支えているのかを多面的に話し合いました。子ども一人一人、「やりたいこと」ができているか、それができる環境であったか、など丁寧に保育を見てもみると、新たな気づきがあります。私たちは、このような保育の振り返りをし、課題を担当だけでなく、教職員みんなで検討し、実践することを繰り返して、子どもたちを育てています。

もうすぐ年長組の生活発表会です。発表会のイメージは劇や音楽を「見てもらう」ということを意識してしまいがちですが、幼児教育で大事にしていることは上手に「見せる」ことではありません。子どもたちは、日々の遊びや経験したこと、または絵本の物語などの遊びから、劇的な遊びへと展開していきます。その過程で自分なりの表しを、教師や友達に受け止められことを通して、表現する喜びを味わいます。発表会では、このようなプロセスを思い浮かべながら、楽しみに参観していただきたいと思っています。



子どもの遊びには「学び」があるのです。



## やきいもをしました～



園の畑で収穫したサツマイモを、園庭で焼き芋にしました。落ち葉や木の枝など、集めていただきありがとうございました。寒くなったこの時期に、楽しくおいしい経験ができました。

「とろとろ～!」「甘くておいしいね!」大満足の子どもたちでした。

## 年長あやめ組 サッカー教室



サッカー教室がありました。2人のコーチから、ボールの扱い方や、体の動かし方、ゲームの楽しさを教えてもらいました。

ようちえんで、こんな歌うたってるよ～



未就園児の会（ひよこの会）で、年少たんぽぽ組さんが、歌とダンスを披露してくれました。小さいお友だちよりも自分たちはお兄さん、お姉さんという気持ちもあって、はりきってみんなで歌っていました。手作りのマラカスをプレゼントしました。

### 【お願い】

朝の登園時間8時30分～8時50分です。寒くなってきましたので、8時50分に玄関を閉めます。その時間を過ぎた場合は、チャイムを鳴らして、お知らせください。また、これからの季節は、道路状況も悪くなりますので、登降園の際はお気を付けてください。